養父市立大屋小学校　　令和6年度　学　校　評　価　　（学校自己評価･学校関係者評価）

令和7年3月24日

1　本年度の学校教育目標

伸びよ　豊かに　たくましく　　～　未来の郷土を拓く　児童の育成　～

2　本年度の学校重点目標

（1）ＳＤＧｓ大屋の食育を通して「郷土愛」「感謝のこころ」「たくましい体」を育む。　（2）知・徳・体のバランスがとれ「確かな学力」を備えた児童を育成する。
（3）学校が起点となり、家庭・地域と一体となった「小中一貫教育」を目指す。

3　学校自己評価結果　（A　良好　B　概ね良好　C　やや努力を要する　D　一層の努力を要する）

	分野	評価項目・取組内容	達成状況	学校の取組状況・改善の方策	学校自己評価の適切さ
学校運営	開かれた学校づくり	○ 学校・学年便りやホームページやオープンスクールを通して、保護者へ学校の情報提供を行っている。 ○ 「ふるさとキャリア教育」を進める中で、地域の人々と交流する教育活動ができている。	A	・学校だよりや学年通信等に児童の活動の様子を掲載し、学校の様子を知ってもらうことができた。特にホームページは、行事だけでなく、普段の学校生活の様子も含め、保護者や地域の方に教育活動を公開することができた。 ・授業参観日やオープンスクールを実施し、地域交流会も実施した。また、かいこの里、わはは牧場、あゆ公園等との地域連携学習活動を始め、多くの地域の方との連携・協働した学習を行った。 ・運動会、学習発表会などを開催し、保護者、地域の参加を得て盛会に終えることができた。	○ホームページの更新回数が増え、学校での教育活動が家庭や地域に伝わり、より大屋小学校が身近に感じられるようになった。 ○学校だよりは、多くの住民が学校生活を知る唯一のものなので、写真を多くし、より見やすくするように努めてほしい。 ○地域と連携した、食育、福祉教育、人権教育、ふるさと教育などの活動が継続的に取り組まれており、開かれた学校づくりが進められていると思う。 ○オープンスクール、地域交流会など、学校内外で子どもも、保護者も地域とつながる機会の継続をしてほしい。
	危機管理体制の整備	○ 防災･防犯マニュアルに沿って訓練を実施し、児童の危機対応能力を育んでいる。	A	・年間２回の避難訓練を実施した。特に、1.17阪神淡路大震災追悼集会では、地震に対する危機意識を高め、自助、共助の大切さを学習した。 ・消防署と連携して心肺蘇生法とAED訓練、警察署と連携して不審者対応の職員研修を実施した。	○防災、防犯に対し、計画的に取り組まれている。地域に根ざした防災教育を進めてみてはどうか。高齢化の進む地域も児童や生徒の支援をお願いしたい。 ○震災に対する訓練だけでなく、震災で得た教訓も学ぶことができている。 ○南海トラフ地震に関する学習も進めてほしい。
	教職員の資質向上	○ 校内研修体制の確立を図り、計画的に校内研修を実施している。	A	・全職員が国語科指導等について計画的に授業研究を行い、講師を招聘し、授業力の向上に努めた。 ・体育科の研究を進めるために、２回の授業研究を行った。 ・職員研修で、ICT機器を活用して、体験的に活用能力の向上を図った。	○教職員の方々が日々研修に取り組み、授業の幅を広げていることを感じる。 ○参観した授業からも、子どもたちが興味や感心を高めるような工夫が多く感じられた。今後も子どもたちが分かる授業づくりに期待する。
	勤務時間の適正化	○ 勤務時間の適正化と学校業務改善を推進している。	B	・水、金曜日の２日を定時退勤日として設定したが、水曜日の完全実施率が低くかった。 ・職員室の整理整頓、保存文書データの整理を意識づけ、業務改善を進めている。	○勤務の大変さが世間ではよく言われているが、勤務の適正化を図り、次の日の勤務に体力、精神力を養い、子どもたちとふれ合えるようにしてほしい。
	校種間連携 （小中一貫教育）	○ 幼小中の連携・協力に努めている。 ○ 小中一貫教育の推進を図っている。	B	・持続可能な範囲で取り組む必要があるが、ずっと同じレベルではなくて、検証、変更を考えていくタイミングだと思う。一貫校の雰囲気もあるので少しずつシフトの仕方を考えていきたい。 ・こども園の授業参観、巡回相談などに参加し、積極的に情報共有を図っている。	○小中一貫教育が適切に推進できている。今後児童生徒数が減少することで、小学校、中学校単体で教育を進めていくことが難しくなっていくことが考えられる。子ども園も含めた連携を進め、子どもたちの健全育成に努めていただきたい。
教科及び教科外の学習指導	基礎基本の定着と 個に応じた指導	○ 教育課程が適切に管理・実施されている。 ○ 兵庫型学習システム等の運用が適切に行えている。 ○ 指導と評価の一体化を推進している。	A	・めあての提示、授業の振り返りに取り組んだ。専門の講師を招聘し、書く力を伸ばす授業をさらに展開させたい。 ・ドリルタイムを見直し、計算力だけでなく、言葉や漢字の基礎学力定着の時間を確保した。 ・学習意欲の向上を図るため、放課後がんばりタイムを活用し、よりつまずきの解消に取り組んだ。参加児童を厳選し、より密な指導を徹底した。 ・学習理解の遅い児童には、個別指導を行い、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図った。	○講師の先生を招いて授業力の向上を図り、大屋小・中学校で授業の交流研修を進めるなどの積極的な取り組みが進んでいることは評価できる。小・中学校の共通理解・共通実践を進めてほしい。 ○基礎をしっかり定着させる事ができるよう今後も十分な時間を確保してほしい。 ○それぞれの子どもの個性と能力が生かせる学校であってほしい。
	人権・道徳教育の充実	○ 身近な問題や体験活動から生徒の自尊感情を育み、人権意識を高めている。 ○ 道徳科の授業の充実を図り、全教育活動の中で道徳性の向上を図っている。	A	・人権標語、人権作文等の作成に合わせて、人権教育を推進した。また、普段の生活指導の中にも、人権について考える機会を多く設定した。 ・社会福祉協議会との連携により、車いすや点字等体験学習等、体験学習を実施した。 ・道徳科の授業改善に向けて、講師を招聘し小中合同で授業研究を継続して行っている。	○社会福祉協議会など、外部の関係機関と連携して、体験活動が子どもたちの人権意識の高揚に有効である。 ○普段の生活の中で、大人の発言に対して子どもから指摘を受けるほど、福祉教育やジェンダー教育などの充実と成果を感じる。 ○近年のモラル低下が話題となっているが、小学校時からの道徳教育によってモラル向上が期待される。
	読書活動の推進	○ 「お話しプレゼント」など、読書環境の推進に努めている。 ○ 「そうあんくんの日」など家庭での読書習慣ついて、指導が充実している。	B	・読書ボランティアの方に「お話プレゼント」として、毎月読み聞かせしていただいている。また、教職員による読み聞かせ「お話しレストラン」を実施、読書ボランティア以外でも啓発に取り組んだ。 ・家庭での読書習慣が課題である。読書の時間は学校では限られるので、「そうあんくんの日」などを活用し、家庭との連携を大切に更なる推進を図っていく。	○本に触れる機会が少ないと思うので、「お話プレゼント」などを通して、話を聞くことで本に興味を持つことにつながる。 ○「そうあんくんの日」の取組が定着してきている。今年度は、家庭での読書時間の向上にはつながらなかったが、家庭とも連携して普段から読書をする習慣づけに取り組んでほしい。
	キャリア教育の充実	○ キャリア教育を推進し、自己実現意識の向上を図った。 ○ 「キャリアノート」「キャリアパスポート」を計画的に活用している。	B	・「ＳＤＧｓ大屋の食育」や「上垣守国」学習を通じて、様々な人に学び、地域の特色を誇り思うキャリア形成を進めていく。 ・「キャリアノート」「キャリアパスポート」の活用が定着している。 ・普段から将来の自分の姿を想像しながら学習に取り組む環境づくりが急務である。	○昔に比べて、未来への自分像を創造できる子どもが増えてきているように感じる。キャリア教育の継続的な取組に期待する。 ○自分自身を見つめ直す機会となっている。 ○キャリアパスポートの取組は、大変よい取組である。継続を願う。
	情報教育	○ ＳＮＳの利用等についての指導と、情報モラルや活用能力の育成を推進している。 ○ ＩＣＴの効果的な活用に取り組んでいる。	B	・小中合同で作成した「ＳＮＳ・ゲーム使用の３本柱」を中心に、児童や保護者への啓発活動を行った。 ・「GIGAワークブックひょうご」を活用し、各学年で情報モラル等の指導を行った。 ・児童が使用する一人一台のタブレットを普段遣いできるよう環境整備が必要である。	○授業でのICT機器の活用が進められている。先生方の活用能力向上が、子どもたちの能力向上に関係していると思われる。校内研修等での取組継続が大切である。 ○近年、小中学生が事件に巻き込まれる一因にSNSが関係しているので、学校だけでなく家庭や関係機関とも連携して情報教育を一層進める必要がある。
	特別支援教育	○ 校内支援体制を充実し、個々の教育的ニーズに対応している。 ○ インクルーシブ教育システム構築に関する教職員の専門性の向上を図っている。	A	・特別支援教育コーディネーターを中心に、保護者や関係機関と連携を図り、一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行った。 ・和田山特別支援学校の講師を招聘し、研修会を行ったり、教職員・保護者共に指導助言を得たりした。	○学校・家庭・関係機関とが、適切に連携して子どもたちの支援が行えている。 ○子どもたち一人一人に合った支援をしていただき、児童、教師共に無理のない教育を今後も継続することを望む。 ○特別支援教育について、家庭や地域への情報発信も行い、理解と支援の一体化を図りたい。
生徒指導・その他	あいさつ	○ 学校・地域の中で気持ちの良い挨拶ができている。	B	・明るく元気なあいさつができる児童が増えてきた。 ・大屋小学校児童が、あいさつ発信地となり、地域に貢献したい。	○授業を参観した際に、子どもたちのあいさつがよくできていて、元気さが感じられた。 ○地域では、低学年の方が、元気なあいさつができているのではないかと感じている。
	清掃活動	○ 縦割り班などを活用して、進んで清掃活動に取り組んでいる。	A	・掃除の時間に一生懸命掃除する心情と態度の育成が図れつつある。 ・児童数の減少により、掃除の範囲や方法を工夫改善する必要がある。	○縦割り班での清掃活動は、上級生が手本となり下級生がその姿を見ることで学ぶ。この繰り返しがよいと思った。
	いじめ防止	○ 毎月の振り返りカードでいじめを許さない学校づくり、好ましい関係づくりに努力できている。 ○ いじめの未然防止と早期発見、早期対応に心がけ、職員で連携した指導ができている。	A	・安心安全な学校・学級づくりに全職員で取り組むことで、未然防止に注力している。 ・児童の細かな変化を見逃さず、全職員が連携して情報交換等を密に行える指導体制の充実を図っている。また、保護者や関係機関との連携も、迅速な対応を推進している。	○子どもたちの実態把握と早期対応に取り組めている。 ○SNSなどの問題もあり、学校だけでの対応では難しい時代となり、家庭や地域との連携も含めた取組を望む。 ○いじめはなかなか発見しずらい面があるが、今後も子どもたちの少しの変化にも気付き、未然防止や早期対応に期待する。
	体罰防止	○ 体罰を根絶し、児童の人権を尊重した指導ができている。	A	・研修資料「NO！体罰」を活用した研修を行った。また、新聞記事などの事例研修に取り組み、意識向上が図れた。	○体罰は暴力であり、許されない。根絶を願います。 ○先生同士の輪を大切にされ、何でも話し合える職場づくりをしてほしい。体罰が生まれない職場づくり、学校風土をつくってほしい。
	児童理解	○ 毎月のふりかえりや教育相談をするなど児童理解に基づいた生活指導をしている。	A	・職員会議での児童理解、月一開催の生活指導委員会で、情報交換や課題検討を行い、全職員が児童一人一人の情報を正しく把握し、指導や支援に生かすことができた。 ・「チャレンジ給食」などを実施することで、担任だけでなく、多くの職員が多面的に児童理解に務めた。	○先生方の間で、積極的に子どもたちの情報交換を行っていることが分かった。今後も子どもたち一人一人に寄り添った教育の推進を期待する。 ○児童・保護者アンケートから、安心・安全で充実した学校生活が送れていることが感じられる。今後も生徒理解に努めるとともに、家庭との連携にも努めてほしい。
	不登校対策	○ 不登しぶり・不登校に対しての、早期発見・早期対応に心がけ、教職員間で連携して指導・支援ができている。	B	・毎月の「ふりかえりカード」と共に、新しくICTを活用した児童理解に努めた。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を図ると共に、より保護者との連携を進めている。	○不登校対策だけでなく、日々の生徒理解や家庭・関係機関との連携が未然防止につながっていると思われる。 ○それぞれの子どもたちに合った支援を、学校と家庭とで検討して、一人一人の子どもに寄り添った取組を今後も継続していただきたい。
	そうあんくんの日 守国さんの日	○ 「そうあんくんの日」に取り組み、児童に自主的な家庭学習や読書などを身に付けさせている。 ○ 「守国さんの日」に取り組み、人のためになるよい行いを心がける気持ちが育成している。	A	・取組カードに、お手伝い等の記録をしながら、意識の向上を図った。 ・「守国さんの日」の設定により、取組の意識向上と定着が見られた。 ・デジタルデトックスに関しては、課題がある。	○「そうあんくんの日」の取組は、多くの子どもたちの中で定着していると感じる。「守国さんの日」の取組も、継続することで、子どもたちの心の中に育まれていくと思う。 ○地域の偉人の名をつけた活動は、長く記憶に残るものと思う。

4　総合的な学校関係者評価

学校全体の雰囲気が良く、子どもを中心に、学校・家庭・地域の繋がりを大切にした学校運営が行われている。子どもたちの学習に対する姿勢もよく、日々の先生方の取組が生かされているように感じる。
今年度の重点目標の３点において、概ね達成できているのではないかと感じる。これからも地域の特色や人材を生かした取組をより進めることで、さらなに郷土を愛する心を醸成してほしい。小規模校の良さを生かした学習指導、仲間づくり、人権教育などを推進し、いじめや不登校の未然防止を進めてほしい。外国語教育やICTの活用など、対応すべき新しい教育への取組が増え、教育現場の多忙化が進み、先生方のワーク・ライフバランスが心配される。先生方の活力があってこその学校運営であり、勤務の適正化の取組をより進めてほしい。総合的に見て、学校教育の運営は保護者や地域からの評価を得ており、概ね良好であると評価される。

5　評価項目ごとの学校関係者評価